

協議会委員ご意見要旨

案件	(1) 葛飾区食育推進計画の進捗状況について	(2) 葛飾区自殺対策計画の進捗状況について	(3) 新型コロナウイルス感染症の発生状況について
<p>ご意見 (要旨)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・孤育や保育園任せとならないよう、個別健診時の離乳食、アレルギー対応の指導を啓発して欲しい。 ・妊婦歯科健診は妊娠9か月までに1回となっているが、対象者の悪阻や体調不良により受診ができないことも想定される。そのような対象者に対して、例えば妊娠期間中にやむを得ない事情で健診を受診できない方は、出産後一定期間内であれば健診を認めるという救済措置を提案する。 ・食物アレルギーに関する知識を幅広く普及して欲しい。 ・ステージごとに実態を踏まえた様々な計画がなされ、コロナ禍の中でも工夫をして実施されているものがたくさんあり、食育に力を入れてくださっていることに感謝している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺の要因や傾向を分析し、ゲートキーパー研修に反映させた方が良い。また、コロナの影響で若い女性や一人親等の自殺が増えているので、傾向等の分析をした方が良い。 ・様々な事柄が関わっているため、部署を横断した取り組みが出来ないと解決出来ないと思う。 ・コロナによる閉塞感が増えるなか、人と人とのつながりを大切にできる工夫をしていけると良いと思う。 ・地域で気をつけて見守る必要がある。 ・3.5ポイントの減少は、とても対策されていると思う。2026年までに16.7まで減少することは大変な対策だと思うが、引き続き対応の強化をして欲しい。 ・前年より減少している。対策の効果の表れだが、全国的にもまだまだ高い。目標達成の対策を強化して欲しい。 ・若年者の自殺、自傷が増えている現状で、より子供たちの心身へのフォロー、そうならないための予防を望む。新型コロナに感染さえしなければいいという過剰すぎる対策の緩和を望む。 ・学校でも、SOSの出し方について、特に学期の始めと終わりに指導している。小学校の段階で、さまざまな人との関わりを通して、自己肯定感、自己有用感をはぐくんでおくことが、子供たちが将来にわたって自他の命を大切にしようとする力につながると考えている。人との関わりを重視した教育活動を今後も進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も変異株の出現が見込まれ感染力、病原性の強弱によってその対応の健康調整が見込まれる。早期発見の検査体制の拡大確保を行い、拡散を防ぐ必要がある。 ・オミクロン株は軽症らしいからかかっても大丈夫との考え方は違うと思う。基本的な感染防止対策を一段と徹底していくことが重要ではないか。 ・市中感染が広がり、落ち着かない状況だが、重症者、死亡者をより少なくしていく対策を優先し、出来る限り、制限の緩和が必要である。子供たちも老人も対策のために心身ともに弱りきっているよう見受けられる。 ・区内の小中学校においても基本的な感染対策を講じていても、学級閉鎖、学年閉鎖等の措置が必要な学校が多く、不安は尽きなかった。 ・今後のより大きな健康被害を想定し、できるだけ先回りし区民の心身の健康回復策を考えた方が良い。

協議会委員ご意見要旨

案件	(4) 新型コロナウイルスワクチンの接種状況について	(5) 令和4年度の新規・拡大事業について
ご意見 (要旨)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチンの接種回数の増加、間隔の短縮から区民も接種回避傾向となってきた。接種機会の利便性をはかると同時に啓発を推し進めていく必要がある。 ・高齢者は早く接種できたようだが、若い人の未接種者が多いので、未接種者の接種機会を確保して欲しい。 ・児童・生徒への接種については、十分な情報を得た保護者の管理下で、個別接種として一人一人の体調を十分に確認した上での実施となっており、子供たちの健康と安全を最優先に考えてくれて感謝している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がん対策の総合的な推進はとても重要と考える。中学生・高校生へのワクチン接種の必要性などの啓蒙活動が重要であり、授業や講演などでワクチンのメリット・デメリットや検診することの意義など理解してもらうことが大切である。 ・健診受診率は、23区内で最上位の実績だが、陽性所見者の事後指導受診率が良くないので啓発をはかる必要がある。 ・子どもの時から日常の健康教育、がん教育、性教育など行い健康リテラシーを高める必要がある。また、医学情報のメディアリテラシーを高め、サプリメント、民間療法、重複医療受診の回避を啓発する必要がある。 ・子宮頸がん予防ワクチンについては、今後も十分な説明とともに進めていただきたい。 ・早期発見、早期治療が必要な疾病への対応ができるため、3歳児健康診査におけるより精密な視力検査の実施は画期的で、非常に良い事業であると思う。